



日本科学者会議 東京支部

第22回 東京科学シンポジウム

2023.12.09 ~ 12.10

テーマ： **理性と希望の平和な時代を拓く**

—国際的な軍事緊張の高まりに抗して—

開催日時：2023年12月9日（土）～12月10日（日）

会場：拓殖大学文京キャンパス（茗荷谷） ※一部企画はオンライン併用

主催：日本科学者会議東京支部

希望の時代を見据え大いに議論しましょう

実行委員長 米田貢

コロナ禍による社会的接触の抑制の結果、この3年間研究会やシンポジウム、さらには大学の授業までがオンライン形式を余儀なくされ、国民生活破壊の悪政に反対する様々な運動もデモや集会を行うことが困難な状況におかれました。12月9日～10日の第22回東京科学シンポジウムは4年ぶりに対面形式、リアル開催で行われます。日頃の研究成果や社会活動での経験を持ち寄り、会員だけでなく多くの市民の皆さんとの交流と連帯を大きく前進させましょう。

1st サーキュラーでの分科会設置の呼びかけに基づいて、今回は16の分科会が設置され、2nd サーキュラーによる報告の募集に対して60名を超える会員や教員・労働組合員・環境問題に取り組む市民の皆さんが、内外の政治・経済情勢の分析や、東京科学シンポの定番となっている日本の科学・技術をめぐる諸問題の提示・解明、環境・教育・労働などの分野での日頃の実践に基づく諸課題の整理、政府・財界による大学と科学の新たな支配の動きの解明などの報告を行います。2日間で計4つの時間帯に開催されるこれら16の分科会すべてに参加いただくことはできません。でも、その盛りだくさんの内容は、参加登録者に事前にファイルで配信され、予稿集に記録され、それを見てもらえれば、日本科学者会議東京支部の活動の全体像を見とることができるはずです。

10月7日ハマスがガザ地区からイスラエルに対して数千発のロケット弾などを撃ち込み、それに対してイスラエルが連日ガザへの猛烈な爆撃とハマスのせん滅を目的とした地上戦を展開しています。ロシアによるウクライナ侵略とそれに続く今回の中東での新たな戦争で、子どもや女性を含む多数の市民が日々犠牲になっています。子どもや女性の人権はいかにして守られるべきなのか。さらに、侵略戦争の違法化を推進してきた現代において、戦争を直ちにやめさせ、平

和を取り戻すために理性と信義に基づく私たちの運動は何をなすべきなのか。また、賃金を切り下げすぎた結果30年に及ぶ経済の停滞を招き、一人当たりのGDPではOECD諸国の最低ランクに下がってしまった日本で、労働者や勤労市民の生活をいかにして立て直すのか。初日の二つの特別報告は、これらの困難な課題についての問題提起となるはずです。

初日の特別報告終了後、「平和を拓く愛とヒューマンのチェロ・コンサート」と懇親会が開催されます。奮ってのご参加をお待ちしています。

1. 開会式 12月9日(土) 13:15-13:25 E館307教室 ※オンライン併用

米田貢実行委員長よりご挨拶

2. 特別報告 12月9日(土) 13:25-17:25 E307教室 ※オンライン併用

1. 原田仁希さん(首都圏青年ユニオン委員長)「非正規労働運動の可能性と展望」
2. 田中優子さん(法政大学名誉教授・前総長)「人権とジェンダー—その歴史的視点—」

3. 分科会 12月9日(土) 午前(E館)、12月10日(日) 午前、午後(F館)

	12月9日(土)	12月10日(日)		オンライン併用		
		10:00~12:15	10:00~12:15		13:15~15:30	15:45~18:00
1	「安全保障三文書」と日本国憲法の相克——日本国憲法の廃棄を阻止する憲法論と運動論を語ろう			F205	F205	○
2	リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流(part7)			F204	F204	○
3	科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part15—			F218	F218	○
4	科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語るpart16—	E305	F218			○
5	2035年を見据えた気候変動対策の課題と市民社会の役割		F204			○
6	自然科学の進展を俯瞰するⅢ				F303	○
7	文学は核兵器の惨禍と脅威をどのように描いてきたか		F303			○
8	人文学から学問と社会の関係を再考する——民主主義、原発、フェミニズム		F219			○
9	院生・若手企画「冬の学校」——海外留学に行こう!				F202	○
10	教育の市場化と公教育			F219	F219	○
11	大学・高等教育の現状認識を共有し明日を考える			F202		○
12	非正規教職員の労働運動のこれからを展望して Part2		F217			○
13	AIとジョブ型雇用			F217		○
14	日本経済の混迷をどう打開するか				F217	○
15	「ポスト冷戦後」の国際政治経済	E304				○
16	ジェンダー・多様性から平和をつくる——女性研究者・技術者の声			F303		○

【1】分科会名：「安全保障三文書」と日本国憲法の相克——日本国憲法の廃棄を阻止する憲法論と運動論を語ろう

- ・設置責任者：金子勝（立正大学分会）、中野貞彦（武蔵野通研分会）
- ・連絡先：s.nakano(at)d012.dant2.jp（中野） ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：岸田文雄内閣は、二〇二二年一二月一六日に、先制侵略攻撃を可能とする「反撃能力」の保有と実行を表明する違憲の「安全保障三文書」を閣議決定（改憲手続きを無視する「憲法クーデター」）して、日本国の「侵略戦争宣言」を発した。国家が、「反撃能力」を発動して侵略戦争を始めようとするれば、“平和の団塊”である日本国憲法に基づいて反対する国民・団体・政党の強い抵抗を受けることになるであろうため、岸田内閣や自由民主党等は、今後、日本国憲法の抹殺に全力を尽すと想定できる。そこで、日本国憲法の廃棄を阻止するための憲法論と運動論を、みなさんと語り合いたいと考えている。

12月10日（日）13：15～16：50 F205 教室 ※オンライン併用

座長：金子勝（立正大学分会）、中野貞彦（武蔵野通研分会）

13：15～13：20 座長あいさつ

13：20～13：50（1）中野貞彦（武蔵野通研分会）：非暴力による平和の論理追究
——幣原喜重郎の平和思想から

13：50～14：20（2）野澤裕昭（自由法曹団東京支部）：急速に要塞化する南西諸島

14：20～14：30 <休憩>

14：30～15：00（3）藤野美都子（福島県立医科大学特任教授）：安全保障三文書から考える平和主義

15：00～15：30（4）北川堅太郎（9条の会ところざわ事務局長）：国家安全保障と軍事的安全保障の峻別について——軍拡の大義を与えないために

15：30～15：45 <休憩>

15：45～16：15（5）金子勝（立正大学分会）：自由民主党政権の改憲方法と改憲案に勝つために

16：15～16：45 総合討論

16：45～16：50 閉会あいさつ

【2】リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流（part7）

- ・設置責任者：長田好弘（武蔵野通研分会）、松永光司（武蔵野通研分会）、橋本良仁（高尾分会）
- ・連絡先：matsunaga_mitsushi(at)hotmail.com（松永） ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：日本科学者会議は「リニア中央新幹線計画の撤回・中止」の態度を「声明」をもって鮮明にし、本件にかかわる学術的諸問題の解明と地域住民の諸要求実現運動との連帯を強めて来た。それらの成果は各種シンポジウムや『日本の科学者』誌上で明らかである。東京地裁は7月18日、「国交相の判断に裁量権の逸脱や乱用はない」「国交相の判断が…社会通念に照らし、著しく妥当性を欠くことが明らかとまではいえない」として、リニア認可取り消し請求を棄却し

た。このような判決理由では、どんなに事実を積み重ね、科学を根拠とした主張も受け入れられない。行きつくところは独断政治、ファシズムである。原告は控訴を決めている。残土、地下水、住宅地陥没…暮らしの不安はあとを絶たない。国民の良識とは異次元の判決を許さない世論の喚起が重要となっている。

12月10日(日) 13:15~17:05 F204 教室 ※オンライン併用

座長：橋本良仁(高尾分会)

13:15~13:20 開会挨拶 長田好弘(リニア中央新幹線問題研究連絡委員会代表)(代読)

13:20~13:50 (1) 大塚正幸(東京支部): リニアのトンネル工事で予想される厳しい地質環境条件を考察する

13:50~14:20 (2) 林克(リニア新幹線を考える静岡県民ネットワーク共同代表):
リニア新幹線を考える静岡県民ネットワーク

14:20~14:50 (3) 籠谷 清(外環ネット): 東京外環道陥没事故から3年
~人権侵害のまち壊しと大深度法~

14:50~15:05 <休憩>

座長：松永光司(武蔵野通研分会)

15:05~15:35 (4) 檜田秀樹(フリージャーナリスト): 全沿線で大幅に遅れる工事

15:35~16:05 (5) 川村晃生(リニア新幹線沿線住民ネットワーク): リニア問題の現状—全体像を俯瞰する—

16:05~16:35 (6) 和泉貴士(東京弁護士会所属 弁護士):

ストップリニア訴訟東京地裁判決の問題点—行政裁量論批判の視点から—

16:30~17:05 (7) 総合討論

【3】科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part15—

・設置責任者：久志本俊弘(大阪支部)、矢作英夫(武蔵野通研分会)、長田好弘(同前)

・連絡先：to4ksmt(at)yahoo.co.jp(久志本) ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：・政府はロシアのウクライナ侵攻を口実に「大軍拡予算化」「秘密特許制度化」「産業の軍備体制化」を強行している。

・第9波コロナ禍の政府対応は、これまで以上に科学・技術の知見を無視する態度で多くの国民を路頭に迷わしている。

・マイナカードなど「デジタル化社会」の強制はいよいよ人権無視、監視社会、ファシズム化への様相をつよめている。

・官民で150兆円投資予定の「GX実現に向けた基本方針」は、宣伝とは裏腹の原発回帰、石炭固執であり、GX実現の「革新技術」も不確実性が指摘されている。

・生成AIの進展と各方面の企業活動・生活の場への実装は多くの問題を提起し、その本質的な

議論が求められている。

・上記いずれも国民的議論が喫緊の課題となっており、「科学・技術の現状批判」は広範な国民各層との共有が重要であり、JSAの情報発信の在り方の論議も必要である。

12月10日(日) 13:15~16:15 F218 教室 ※オンライン併用

座長：久志本俊弘 (大阪支部)、**矢作英夫** (武蔵野通研分会)

13:15~13:20 座長あいさつ

13:20~13:50 (1) 長田好弘 (武蔵野通研分会)：軍事研究強制に抗して全分野の研究者の連帯を —平和への願いと研究者の節操をもって—

13:50~14:20 (2) 野村康秀 (特許庁分会、科学・技術政策委員会)：安保戦略改定下の科学・技術政策、特許出願非公開にも触れて

14:20~14:50 (3) 小滝豊美 (国公立試験研究機関問題委員会／茨城支部)：アンケート結果から見る国立研究機関の実態と課題

14:50~15:00 <休憩>

15:00~15:30 (4) 出口幹郎 (大阪支部関西技術者懇)：PFAS(有機フッ素化合物)による水汚染と健康リスク

15:30~16:00 (5) 矢作英夫 (武蔵野通研分会)：

「能動的サイバー防御」による監視、情報収集の危険性

16:00~16:15 総合討論

【4】科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part16—

・**設置責任者**：長田好弘 (武蔵野通研分会)、松永光司 (同前)

・**連絡先**：matsunaga_mitsushi(at)hotmail.com (松永) ※メールを送る際は(at)を@に代えて下さい

・**設置趣旨**：政府・与党はロシアのウクライナ侵攻、朝鮮・台湾有事などを口実に、防衛産業強化法を制定し、米軍主導のもとで敵基地攻撃能力の強化、「殺傷兵器」全面輸出をすすめている。

政府与党は、多大な欠陥を露わにしたマイナカードを、デジタル化社会構築のテコにするため導入強行を図っている。行きつく先は管理・監視社会であり、軍国主義国家化である。

「軍事研究は行わない」を創立の基本精神とする日本学術会議への攻撃が一段と強まる情勢にある。広範な国民とともにこの攻撃を許さないためにも、学術会議提唱の「研究インテグリティ」の議論を深め発展させる。

学術・生産・生活の広範な分野で私たちは、近年急速な発展をとげる生成 AI 技術と深く関わることになろう。負の面を克服しつつ社会進歩に役立つ積極的な利活用を心がける広範な議論をリスペクトをもって進める。

12月9日(土) 10:00~12:15 E305 教室 (前半、初日) ※オンライン併用

10:00~10:05 座長あいさつ

10:05~10:35 (1) 長田好弘 (武蔵野通研分会)：研究インテグリティに関する論点整理

—研究不正の元凶は『競争主義』と『選択と集中』—

10:35~11:05 (2) 藤田実 (桜美林大学):

A I 技術をめぐる競争・国家戦略の新段階と資本主義的充用

11:05~11:35 (3) 野村康秀 ((特許庁分会、科学・技術政策委員会):

セキュリティ・クリアランスと研究者・技術者

11:35~12:05 (4) 亀山孝二、渡辺顕治(東京支部):

科学運動での論理への関心: 科学・技術と人間論の視点から

12:05~12:15 総合討論

12月10日(日) 10:00~12:00 F218 教室 (後半、二日目) ※オンライン併用

10:00~10:30 (5) 小金澤鋼一 (東海大分会): 軍事大国が描く未来の戦争

10:30~11:00 (6) 松永光司 (武蔵野通研分会): 岸田大軍拡のもとで深まる軍事研究の危機

11:00~11:30 (7) 増澤誠一 (特許庁分会): 変わる知的財産事情 2023

11:30~12:00 総合討論

【5】2035年を見据えた気候変動対策の課題と市民社会の役割

・設置責任者: 佐川清隆 (東京大学分会)

・連絡先: Kinomotosakura0401@hotmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えて下さい

・設置趣旨: 世界的な猛暑や山火事などで気候への危機が高まっている。国際的には、2024年の気候変動 COP29 に向けて、2035年目標を出す必要がある。国内では第7次エネルギー基本計画の議論がそれとリンクする。2022年のG7サミットでは、日本政府も2035年までの電力の完全または太宗の脱炭素化に合意した。そうした中で、電力・エネルギーシステムをどう転換するか、その際に市民運動や地域社会が主導的な役割を果たせるかが問われている。この分科会は公害・地球環境問題懇談会と共催で、2035年に向けた電力・エネルギーの議論の中で、市民社会がかかげるべき目標や、果たすべき役割を広く議論する。

12月10日(日) 10:00~12:15 F204 教室 ※オンライン併用

座長: 佐川清隆 (東京大学分会)

10:00~10:05 主催者あいさつ

10:05~10:25 (1) 佐川清隆 (東京大学分会): 2035年の電力・エネルギーをめぐる国内外の動向について

10:35~11:05 (2) 歌川学 (産総研): 2050年排出ゼロに向けた脱炭素対策と2035年目標

11:05~11:25 (3) 奥田さが子 (公害地球懇): 若い世代や学校現場で気候危機問題を考えるために

11:25~11:45 (4) 田原美優 (Fridays For Future Tokyo): 若者の気候ムーブメントが目指す社会

11:45~12:15 特別発言・総合討論

【6】自然科学の進展を俯瞰するⅢ

・設置責任者：青木和光（国立天文台分会）

・連絡先：aoki.wako(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：自然科学の各分野における著しい進展を、専門の異なる研究者が集まる日本科学者会議の特色を活かして俯瞰することを目指す分科会を開催します。各分野での進展を研究者個人の視点で見つめなおし、それを交流することで自然科学の潮流をつかむことを目標にします。分科会では、3人程度からそれぞれの分野での顕著な進展とその特徴や背景を報告してもらい、参加者にも各分野の状況を発言いただく時間をとる予定です。今回は特に、日本科学者会議の設立目的である科学の普及について、考え方や取り組みがどのように進展してきたのか、考えてみたいと思います。この面での報告・発表を歓迎します。

12月10日（日）15：45～18：00 F303 教室 ※オンライン併用

座長：青木和光（国立天文台）

15：45～15：55 座長あいさつ

15：55～16：25（1）縣秀彦（国立天文台）：基礎科学と平和外交—国際天文学連合の10年戦略を読み解く—

16：25～16：55（2）秋本祐希：素粒子をどのようにゆるく伝えるか

16：55～17：00 <休憩>

17：00～17：30（3）高瀬堅吉（中央大学）：シチズンサイエンス推進の現状及び課題

17：30～18：00 質疑応答・議論、まとめ

【7】文学は核兵器の惨禍と脅威をどのように描いてきたか

・設置責任者：風見梢太郎（武蔵野通研分会）

・連絡先：kazami(at)big.or.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：ロシアのウクライナへの侵攻によって、あらためて私たちは核兵器の惨禍と脅威について真剣に考えなくてはならない事態に立ちいたった。過去の文学が被曝の惨禍と核兵器の脅威をいかに描いてきたかをテーマにした分科会を設置し、多くの人たちとこの問題について討論したい。また、ロシア、ウクライナなどの文学者が今の戦争をどのように捉え平和のためにどのような活動をしているのかについても情報を共有したい。分科会はこれまでと同様自由に意見交換できる交流会形式としたい。

12月10日（日）10：00～12：15 F303 教室 ※オンライン併用

座長：風見梢太郎（武蔵野通研分会）

10：00～10：05 座長あいさつ

10：05～11：05（1）風見梢太郎（武蔵野通研分会）：文学に描かれた被曝の実相と核兵器の脅威

11：05～11：15 <休憩>

11：15～12：15 討論と交流

【8】人文学から学問と社会の関係を再考する——民主主義、原発、フェミニズム

- ・設置責任者：浅野雄大（東大院生分会）
- ・連絡先：samurai857(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：日本科学者会議では設立以来、研究者と社会の有効な結び付きが目指されてきた。しかし学問にはポストモダンの反基礎付け主義を経て、その社会での正当性に疑問符が付せられた歴史がある。実際、近年では日本学術会議の不任命問題が話題になったこともあり、その問題は日本でも顕在化している。このシンポジウムでは、人文学を専門とする若手研究者が異なる視点から学問と社会の関わりを分析し、これから研究者は社会とどう関わっていくべきかを模索する。

12月10日（日）10：00～12：15 F219 教室 ※オンライン併用

座長：浅野 雄大（東大院生分会）

10：00～10：05 座長あいさつ

10：05～10：35（1）浅野 雄大（東大院生分会）：リオタールのポストモダン論再考—エピステーメーとしての「ポストモダン」について

10：35～11：05（2）石川洋行（八洲学園大学）：あれから12年、科学的基準の無視と分断される地域社会

11：05～11：35（3）川越菜都美（立教大学）：初期キリスト教文書とジェンダー

11：35～11：45 休憩

11：45～12：15 質疑・討論

【9】院生・若手企画「冬の学校」——海外留学に行こう！

- ・設置責任者：森山洸（東大院生分会）
- ・連絡先：hikaru.yamayama(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：昨今、研究者のグローバルな活躍が期待されていますが、どうしたらいいのか分からない人がいると思います。また、お金や時間の面で最初から諦めている、関心がないという人もいると思います。しかし、様々なサポートがあることが分かれば、意外にも簡単に行けることが分かるかもしれません。この分科会は、海外留学経験のある方に利用した制度や準備などを詳しく伺い、海外留学に関心のある皆さんに役立ててもらえるものです。

12月10日（日）15：45～17：45 F202 教室 ※オンライン併用

座長：森山洸（東大院生分会）

15：45～15：50 座長あいさつ

15：50～16：25（1）瀬名波栄志（京都支部）：フィリピン留学の経験—地域研究者にとってのフィールドワークと生活—

16：25～17：00（2）古賀勇人（マンチェスター大学博士課程）：イギリス留学の経験—学部交換から修士、博士留学まで—

17:00～17:10 <休憩>

17:10～17:45 質疑応答

【10】教育の市場化と公教育

- ・設置責任者：山本由美（和光大学分会）・大友育子（都立公立小学校教員）
- ・連絡先：tu-ootomo(at)educas.jp（大友） ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：都がすすめる効率優先の教育は、非正規教員を増やし、プールや部活動の外部委託等民間企業の参入をすすめてきました。高校入試の一部を企業に外部委託するESAT-Jを実施し多額の予算をかける一方、正規教職員を増やしていません。学校統廃合により大規模校化した学校では、教職員の長時間過密労働はより深刻です。教職員の欠員によって特別支援教育に対するしわ寄せも発生しこのままでは公教育が立ち行かなくなります。

12月10日（日）13:15～18:00 F219 教室 ※オンライン併用

座長：山本由美（和光大学）、大友育子（公立小学校教員）

13:15～13:30 座長あいさつ

13:30～14:20（1）山本由美（和光大学）、横森茂樹（三鷹市元教員）：学校統廃合と三鷹市のコミュニティースクールについて

14:20～14:30 <休憩>

14:30～15:30（2）久保野雅史（神奈川大学）：都立高校入試に導入された英語スピーキングテストESAT-Jが孕む致命的な欠陥とは何か？

15:30～15:45 <休憩>

15:45～16:45（3）大友育子（東京都公立小学校教員）：東京都の教職員不足と特別支援教育へのしわ寄せ

（4）近藤真理子、伊田勝憲、田中義和（社会的ひきこもりと今日的な課題検討委員会）：不登校・社会的ひきこもりの今日的課題

16:45～17:00 <休憩>

17:00～18:00（5）山本由美（和光大学）、原のり子（都議会議員）：水泳授業民営化、学校プール廃止の中で—水泳授業はなぜ必要か—

【11】大学・高等教育の現状認識を共有し明日を考える

- ・設置責任者：多羅尾光徳（東京農工大学分会）
- ・連絡先：tarao(at)cc.tuat.ac.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：研究費の過度な「選択と集中」、世界でトップクラスの高い授業料、そのいっぽうで貧弱な学生支援制度、若手研究者・非常勤講師の使い捨て、軍事研究への甘い誘い、「ガバナンス」の機能不全と腐敗した経営陣が引き起こす不祥事。大学の貧困化と疲弊は、この国の高等教育がもたらした当然の帰結である。権利としての教育を取り戻し、大学を公正で持続可能な社会の構築に資するコミュニティとして再構築するために、国立・公立・私立という設置形態や、

学生・院生・教員・職員という立場の違いを超えて、大学に関わる全ての人たちが考え、議論を交わせる場としたい。

12月10日(日) 13:15~15:30 F202 教室 ※オンライン併用

座長：多羅尾光徳（東京農工大学・東京支部）

13:15~13:20 座長あいさつ

13:20~13:50 (1) 田中 法博（長野大学）：地域社会と大学の民主化（仮題）

13:50~14:20 (2) 竹谷 悦子（筑波大学）：筑波大学で何が起きているか（仮題）

14:20~14:30 <休憩>

14:30~15:00 (3) 松本 尚（奈良女子大学）：奈良女子大学の独裁・私物化反対活動の顛末

15:00~15:30 (4) 黒瀬一弘：国際卓越研究大学の認定候補となった東北大学ではどうなっているか（仮題）

【12】非正規教職員の労働運動のこれからを展望して Part2

・設置責任者：衣川清子（個人会員）

・連絡先：kinu_k716(at)yahoo.co.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：雇用の安定をめざして2013年4月から施行された改正労働契約法とそれ以降の推移は、非正規教職員の労働運動を前に進めると同時にいくつかの問題も提起した。多くの労働者が無期契約に転換できた一方で、無期転換を嫌う企業による更新上限付与、「委託」「請負」としての労働者性の否定、恣意的な就業規則改定による労働条件引き下げ、均衡・均等待遇の否定の動きが見られる。こうした逆風にどう立ち向かっているか、たたかひの現状と展望を現場から報告してもらおう。

12月10日(日) 10:00~12:15 F217 教室 ※オンライン併用

座長：衣川 清子（東京支部個人会員・教育ユニオン委員長）

10:00~10:05 座長あいさつ

10:05~10:30 (1) 衣川清子（東京支部個人会員・教育ユニオン委員長）：この2年間を振り返り、今後を考える——非正規教職員の労働運動のこれからを展望して Part 2

10:30~10:55 (2) 河合紀子（東海大学教職員組合静岡支部長、東海大学静岡キャンパス韓国語非常勤講師）：東海大学におけるストライキの意義と今後（仮）

10:55~11:05 <休憩>

11:05~11:30 (3) 佐々木信吾（教育ユニオン書記長）：任期法・イノベ法、乱用の報い

11:30~12:15 討論

【13】AI とジョブ型雇用

・設置責任者：黒田兼一（明治大学分会）

・連絡先：kuroken(at)meiji.ac.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：このところチャットGPTなど、AIの発達と普及が著しいが、それによって仕事にな

くなるのではないかと不安も聞かれるようになった。また、政府の新しい資本主義実現会議では、リスクリング、エンプロイアビリティ、エンゲージメント、そして「ジョブ型雇用（職務給）」という言葉が飛び交っている。本分科会では、これらDX時代の雇用と労働の有り様をめぐる問題について、その正確な理解に立って「人間らしい働き方・働かせ方」を模索する。

12月10日（日）13：15～15：30 F217 教室 ※オンライン併用

座長：黒田兼一（明治大学分会）

13：15～13：20 座長あいさつ

13：20～13：50（1）山崎憲（明治大学）：「AIと労働」

13：50～14：20（2）藤田実（桜美林大学）：「ジョブ型雇用とリスクリング、賃金」

14：20～14：30 <休憩>

14：30～15：00（3）三木陵一（JMITU関係者）：「ジョブ型雇用の実態、現場からの報告」

15：00～15：30 質疑応答

【14】日本経済の混迷をどう打開するか

・設置責任者：佐久間英俊（中央大学分会）、村上研一（中央大学分会）

・連絡先：sakuma(at)tamacc.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：日本経済が長期低迷に入って久しいが回復の兆しはいまだ見えない。多くの企業が国際競争力を落とし、労働者は実質賃金が低下し、急速な少子化で将来市場にも抑制がかかる。財政赤字も膨らむ一方で、社会保障を切り捨てられた市民は競争疲れで閉塞感をぬぐえない。

かつては代表的産業で世界一位の座にあり、巨額の貿易黒字を羨まれた日本経済が、なぜ混迷するに至ったのかを押さえた上で、混迷から脱するにはどのような政策が必要か、参加者とともに考えたい。

12月10日（日）15：45～18：00 F217 教室

座長：佐久間英俊（中央大学分会）、村上研一（中央大学分会）

15：45～15：50 座長解題

15：50～16：15（1）鎌田修全（中央大学院生分会）：日本の内需停滞と食料品消費の変容

16：15～16：40（2）菅野啓一（個人会員）：損害保険業界における料率の自由化と業界構造の変化

16：40～16：50 <休憩>

16：50～17：15（3）佐久間英俊（中央大学分会）：日本経済低迷の原因と打開策

17：15～17：55（4）討論

17：55～18：00（5）まとめ

【15】「ポスト冷戦後」の国際政治経済

・設置責任者：森原康仁（個人会員）

・連絡先：ya.moriyama(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・**設置趣旨**：東西を分断していた冷戦の壁が崩壊した「冷戦後」では、一方では自由と民主主義の普遍性が証明されたという側面があるが、他方では政治の役割が後景に退き、ネオリベラルな経済的自由主義が跋扈した。そこでは主権国家の経済的関与は政治的正当性を失い、巨大企業とマネーの支配する世界が現れた。しかし、2020年代に入ると、米中摩擦、WTO紛争解決システムの機能不全、ウクライナ戦争といった「地政学的緊張」があらわれてきた。主要国は経済的関与を再強化し、経済を武器化し、軍事費を拡大させている。この真逆ともみえる事態の急転換をどのように理解すればよいか。本分科会では経済、政治、社会、文化といった多角的な視野から、分科会参加者ととともに、2020年代の国際政治経済を展望する。

12月9日(土) 10:00~12:15 E304 教室 ※オンライン併用

座長：森原康仁（個人会員・専修大学）

10:00~10:30 (1)：『「ポスト冷戦後」の国際秩序とその経済的基礎——座長による趣旨説明を兼ねて』

10:30~11:15 (2) 赤坂次郎（政治ジャーナリスト）：「米中対立が生み出す新国際秩序」

11:15~12:00 (3) 田中幹大（個人会員・慶應大学）：「日中製造業の相互関係とコロナ禍前後の変化」

12:00~12:15 質疑応答

【16】ジェンダー・多様性から平和をつくる—女性研究者・技術者の声

・**設置責任者**：中島明子（はづきの会、J分会）

・**連絡先**：mamanotanuki(at)yahoo.co.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
080-1158-4983

・**設置趣旨**：「はづきの会」では、女性研究者・技術者の生き方や研究成果の報告と共に、「平和」の課題を、ジェンダー・多様性の視点や様々な側面から追究してきました。

特にロシアによるウクライナ侵攻によって、世界秩序が大きく揺らぎ、日本においてもこれを口実に、急激な軍拡が進められようとしています。改めて、「平和をどのように構築するか」、すなわち「平和をつくる」課題をとりあげ多面的に論じ、課題を探っていきたいと思います。

12月10日(日) 13:15~15:30 F303 教室 ※オンライン併用

座長：大竹美登利（元東京学芸大学）

13:15~13:20 座長あいさつ

13:20~13:35 (1) 中島明子（東京支部）：まず子どもから—戦争はいやだ100冊の絵本

13:35~13:50 (2) 長 香織（宇都宮大学共同教育学部）：包括的性教育における「ジェンダー・多様性と人権」

13:50~14:00 <休憩>

14:00~14:15 (3) 久木田 茜（東京藝術大学大学院美術研究科）：現代美術にみられる装飾性からジェンダーや多様性を考える

14:15~14:30 (4) 河野貴美子（国際総合研究機構）：平和って？—脳から考える

14:30~15:20 参加者の声・討論

15:20~15:30 おわりの言葉

[18:30~21:00 分科会の懇親会 (会場は当日ご案内)]

4. ポスターセッションの募集 E302 教室 (会員控室内)

- ・統括設置責任者：日本科学者会議東京支部事務局
- ・設置趣旨：東京支部の分会、個人会員、若手・院生、女性研究者などの活動概要を広く会の内外に紹介します。
- ・シンポジウムの開催期間中、会員控室にポスターを掲示する予定です。
- ・ポスター発表希望の方は11月30日までに実行委員会 (22nd-kagaku(at)jsa-tokyo.jp) にご連絡ください。

5. 展示 (シンポジウム期間中開催)

- ・日本・キューバ友好の展示とイベント——キューバに関する知見や文化を紹介！多面的にキューバを体験してください！
- ・その他、似顔絵コーナー、9条科学者の会、日朝協会、日中友好協会などに出展を打診中。

6. プレ企画イベント

- ・第22回東京科学シンポジウム記念 囲碁大会
- ・日時：2023年11月19日(日) 13:15~17:30
- ・場所：吉祥寺東コミュニティセンター (JR吉祥寺駅北口から徒歩7分)

住所：東京都武蔵野市吉祥寺東町1-12-6

電話：0422-21-4141

道順：吉祥寺駅北口を直進、吉祥寺駅北を右折、吉祥寺東コミセン入口を左折、250m右側

- ・試合形式：変則リーグ戦、1人3対局 (穂坂繭 日本棋院三段による指導碁もあります)
- ・会費：1000円/1人 (指導碁は+3000円)
- ・連絡先：日本科学者会議東京支部 矢作英夫、米田貢
042-421-9632 (矢作)、[myahagi\(at\)viola.ocn.ne.jp](mailto:myahagi@viola.ocn.ne.jp)

7. チェロ・コンサート

- ・日時：2023年12月9日(土) 18:00~18:40

- ・会場：キャンパス内ですが会場未定
- ・演奏者：江原望さん（日本フィルハーモニー交響楽団）
- ・費用は懇親会代金に含みます（「9. 参加費」を参照）
- ・先着順です。お申し込みは東京支部ホームページからシンポジウムに参加登録（懇親会参加を選択）してください。

8. 開催日程と主な企画

	午前 10:00～12:15	午後Ⅰ 13:15～15:30	午後Ⅱ 15:45～18:00	夜 18:00～20:30
12月9日（土）	分科会1	開会式 特別報告Ⅰ 特別報告Ⅱ		音楽コンサート 懇親会
12月10日（日）	分科会2	分科会3	分科会4	

上記はシンポジウムの主要な企画の概要です。閉会式や新たな企画が加わるなど細部は若干変更になる可能性があります。

企画参加者は誰もが事前に参加登録する必要があります。東京支部ホームページ(<http://jsa-tokyo.jp/>、トップページの右側) から登録してください。

9. 参加費 ※募金にもご協力ください

	シンポ参加費	懇親会費
一般	2000円	3000円
院生・学生	1000円	1500円

オンラインでのみ参加される方のシンポジウム参加費は無料です。

懇親会費にはチェロ・コンサートの参加費を含みます。

シンポジウム開催には会場費、通信費、印刷・宣伝費など諸経費が必要です。これらは東京支部のシンポジウム開催予算と皆さまからの参加費をあてますが、それらだけでは不足してしまう見込みです。募金にご協力をお願いします（1口1000円で何口でも結構です）。

会員や会誌読者の方は、10月の会誌等発送に同封する振り込み用紙で募金にご協力ください。参加登録をいただいた方にもメールでご案内いたします。

10. 本シンポジウムへの参加方法

(1) 会場へのリアル参加

今回の東京科学シンポジウムは会場でのリアル開催を基本としています。ぜひ会場へお越しく

ださい。

参加希望者は JSA 東京支部ホームページの専用コーナーから事前に参加登録を行います。参加登録いただいた方に実行委員会から資料置き場（予稿と報告レジュメ、図表などの資料など）へのアクセス方法をお知らせします。

当日会場でも参加を受け付ける予定ですが、その場合は、ウェブ上に設けた資料へのアクセスは保証されません。

（２）オンラインでの参加

特別報告と一部の分科会には、オンラインでも参加できます。オンラインへのアクセス方法は参加登録を済ませた方にメールでお知らせします。

分科会のオンライン開催は、分科会ごとに対応しております。質問の受付など当日の運営については、当該会場の座長や司会者の指示に従ってください。

11. 予稿集の入手方法

（１）予稿集（電子版）や関連資料はインターネット上の資料置き場から無料でダウンロードできます。12月初旬頃、参加登録者に資料置き場へのアクセス方法をメールでお知らせします。

（２）予稿集（冊子版）は実費負担で希望者に頒布します（1冊2500円、送料込み）。参加登録時にお申し込みください。予稿集の申し込みを11月5日までとじていましたが、残部がある範囲でそれ以降の希望者にも頒布いたします。希望者は、実行委員会までメールでご相談ください。

12. 今後のスケジュール（予定）

○11月10日 3rd Circular 発行（最終プログラムを公表。参加者を募集）

○11月19日 プレ企画 囲碁大会（吉祥寺東コミュニティセンター）

○12月初旬 オンライン参加の方法について案内

○12月初旬 予稿集（冊子）発行

参加登録者に電子ファイルを無料ダウンロード、冊子は有料頒布で指定住所へ送付します

○12月9日～10日 第22回東京科学シンポジウム（拓殖大学文京キャンパス）

13. シンポジウム会場（チェロコンサート&懇親会会場）

（１）会場：拓殖大学文京キャンパス（文京区小日向3-4-14）

12月9日（土）は文京キャンパスE館3・4階、10日（日）は国際教育会館（F館）2・3階と、両日で会場の敷地が異なりますのでご注意ください。E館とF館は徒歩約3分の距離です。



- (2) 交通アクセス：①東京メトロ丸の内線「茗荷谷駅」下車、南に徒歩約3分
 ②東京メトロ有楽町線「護国寺駅」下車、南東に徒歩約12分

東京科学シンポジウムは東京支部の今期最大の企画です。
 会員が日頃の研究の成果を発表する場でもありますが、
 実行委員会は市民とともに成功させようと位置づけています。
 非会員の方もお誘い合わせのうえ、気軽にご参加ください。

第22回東京科学シンポジウム実行委員会

青木和光（支部常任幹事）、浅野雄大（支部常任幹事）、衣川清子（支部常任幹事）、佐川清隆（支部幹事）、○佐久間英俊（支部事務局長）、佐藤和宏（支部幹事）、多羅尾光徳（支部幹事）、中島明子（支部代表幹事）、森原康仁（支部常任幹事）、森山洸（支部常任幹事）、山村延郎（支部幹事）、吉村さくら（支部幹事）、◎米田貢（支部代表幹事）

◎：実行委員長、○：実行委員会事務局長 2023年10月末日時点

日本科学者会議東京支部 第22回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9階

Tel/Fax：03-3811-8281

e-mail：22nd-kagaku(at)jsa-tokyo.jp

※メールを送る際は(at)を@に代えてください